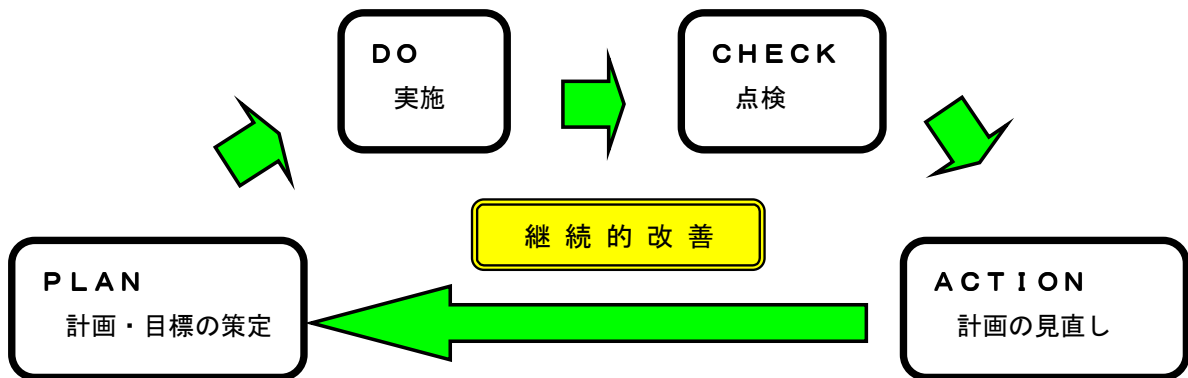


1. 環境マネジメントシステム

1 環境マネジメントシステムとは

「環境マネジメントシステム」とは、企業、事業所等の組織が、法令等の規制基準の遵守にとどまらず、自主的・積極的な環境保全行動に向けた取組を推進するシステムで、Plan-Do-Check-Action という一連のサイクルを回し続けることで継続的改善を図り、環境負荷の低減を図ろうというものです。



2 環境マネジメントシステムを導入する理由（メリット）

環境マネジメントシステムを導入することで、以下のような財務上及び経営戦略上のメリットが考えられます。

① 環境リスクの回避

大気汚染や水質汚濁など環境問題を起こすことは企業イメージを損なうこととなり、損害賠償などの問題が発生すると、その対策コストは事前対策コストと比較して非常に大きなものになります。

自社の環境に関する法規制や自主基準の遵守状況を認識し、さらに、自らの事業活動による環境への影響を調査、把握することで、環境リスクへの予防対策が図られます。

② 業務の効率化、コスト削減

環境への負荷を小さくするということは、材料の調達から生産、販売、廃棄に係るまでの段階での業務の無駄を省くことであり、業務の効率化が図られます。また、業務プロセスを見直すことで、環境面での業務上の無理・無駄が発見でき、さらに社員の意識変革もなされ、業務の効率化へとつながります。

さらに、省エネや廃棄物の削減は、環境負荷の低減だけでなく、エネルギーコストや処理コストの削減にもつながりますし、環境という新しい視点で、全業務を見直すことで、新たな業務改善が実施され、全体的なコスト削減につながります。

③ 企業イメージの向上

事業者の環境に配慮した取り組みの程度によって、消費者、社会の事業者に対する評価が大きく異なり、消費者の製品、サービスの選択基準に環境への負荷が取り入れられるようになってきました。環境行動計画を公表するなどして環境への取組をアピールすることで、事業者のイメージアップが図られるとともに取引条件の改善にもつながりますし、地域住民、地域社会との良好な関係を維持できます。

3 環境マネジメントシステムの仕様

環境マネジメントシステムの仕様を定めたものとして、国際規格のISO14001があります。この規格には、組織が環境への負荷を継続的に改善していくための要求事項を定めており、これを満足することが求められています。しかし、ISO14001を認証取得し維持していくためには、かなりの経費と労力が必要となります。

そこで、環境省や一部の地方公共団体においては、主に中小企業向けに、もう少し簡易に環境マネジメントシステムが構築できるよう簡易版ISOといったものを用意しています。この一つとして、環境省のエコアクション21があります。また、全国に先駆けて地方において開発された環境マネジメントシステムの制度として、京都環境マネジメントスタンダード（KES）があります。

金沢市では、「金沢市持続可能な社会を形成するための連絡会」を設置し、市内の事業者が地球温暖化防止、廃棄物削減、グリーン購入に積極的に取り組み、環境保全活動を一層推進するためお互いの取り組みについて情報交換などを行っています。また、自主的な環境保全活動に取り組もうとする企業に対し「地球温暖化防止実行計画」の策定やその後の活動に関するアドバイスも行っています。

この計画は、内容や表現が平易で、中小企業にも取り組みやすく、環境への意識付けを行いながら低コストで容易に環境マネジメントシステムを構築できるものです。

